

集会アピール（案）

3月11日、大地震と大津波が東北地方を襲い、福島第一原発事故により世界は一変しました。今や「フクシマ」は世界の共通語となり、世界中が注目しています。放射能の拡散が懸念され、そのシミュレーションが海外から多数報じられました。

何より事故は未だ収束していません。地獄の釜のふたは開いたままであり、もし大きな余震が起きたら、最悪の事態となる可能性も指摘されています。国の内外の英知を結集し、総力を挙げて一刻も早く収束させることが求められています。

石川県の志賀原発1号機は、今年2月末に発生した再循環ポンプの事故により停止し、その後も事故やトラブルが頻繁に発生しています。志賀原発の運転管理体制に構造的な問題があると思えません。口先だけの「安全優先」や「原因究明と再発防止」はもう十分です。「北陸電力に原発運転の資格なし」と改めて言わざるを得ません。

一方2号機は、9月中にストレステストという「気休め」の儀式を終える予定です。今後、「冬の電力不足」というデマ・キャンペーンが張られ、年内の再稼働を強行して来ることが予想されます。再稼働の山場は年末からと想定されます。民意を無視した再稼働は絶対に阻止しなければなりません。

世界は「ノーモア フクシマ」を合言葉に「脱原発」に向けて動き出しています。本来ならば、福島第一原発事故を引き起こした日本こそが、「脱原発」に向けて世界をリードしていかなければならないはずですが、

私たちは「核と人類は共存できない」「再び被爆者を作らない」という原点に立ち返り、これまで以上に闘いを強化していかなければなりません。

志賀原発廃炉に向け、団結してがんばることを訴えて集会アピールとします。

2011年9月14日

9.14 脱原発アクション in とやま